



Rafal Blechacz
Piano Recital

ラファウ・ブレハッチ
ピアノ・リサイタル

2024年2月22日(木) 19:00開演
東京オペラシティ コンサートホール

7:00p.m., Thursday, February 22, 2024 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催：ジャパン・アーツ

後援：駐日ポーランド共和国大使館 / ポーランド広報文化センター

協力：ユニバーサル ミュージック / スタインウェイ・ジャパン

©Marco Borggreve



＜オール・ショパン・プログラム＞
All Chopin Program

4つのマズルカ Op.41

4 Mazurkas, Op.41

- 1.嬰ハ短調 2.ホ短調 3.ロ長調 4.変イ長調
1. C-sharp minor, 2. E minor, 3. B major, 4. A-flat major

3つのマズルカ Op.50

3 Mazurkas, Op.50

- 1.ト長調 2.変イ長調 3.嬰ハ短調
1. G major, 2. A-flat major, 3. C-sharp minor

3つのマズルカ Op.56

3 Mazurkas, Op.56

- 1.ロ長調 2.ハ長調 3.ハ短調
1. B major, 2. C major, 3. C minor

3つのマズルカ Op.63

3 Mazurkas, Op.63

- 1.ロ長調 2.ヘ短調 3.嬰ハ短調
1. B major, 2. F minor, 3. C-sharp minor

* * *

4つのマズルカ Op.24

4 Mazurkas, Op.24

- 1.ト短調 2.ハ長調 3.変イ長調 4.変ロ短調
1. G minor, 2. C major, 3. A-flat major, 4. B-flat minor

ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op.35「葬送」

Piano Sonata No.2 in B-flat minor, Op.35

- 第1楽章：グラヴェ〜ドッピオ・モヴェメント 1st mov.: Grave – Doppio movimento
第2楽章：スケルツォ 2nd mov.: Scherzo
第3楽章：レント、マルシュ・フュネーブル 3rd mov.: Lento, Marche funèbre
第4楽章：フィナーレ：プレスト 4th mov.: Finale: Presto

ラファウ・ブレハッチ 2024年日本公演スケジュール

2月17日(土)	所沢	所沢市民文化センター ミューズ	主催：(公財)所沢市文化振興事業団
2月18日(日)	大阪	ザ・シンフォニーホール	主催：ABCテレビ 協力：ザ・シンフォニーホール
2月20日(火)	川崎	ミューザ川崎 シンフォニーホール	主催：神奈川芸術協会 協力：ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)
2月22日(木)	東京	東京オペラシティ コンサートホール	主催：ジャパン・アーツ
2月24日(土)	横浜	フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)	主催：フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)
2月25日(日)	長崎	とぎつかなりーホール	主催：時津町・時津町教育振興公社

ラファウ・ブレハッチ (ピアノ)

Rafał Blechacz (Piano)



©Marco Borggreve

2005年、第15回ショパン国際コンクール優勝。マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンツェルト賞、ソナタ賞(クリスチャン・ツイメルマンにより創設)、オーディエンス賞と全てを同時受賞。同世代で最高のショパン弾きと称される。

彼のレパートリーはバッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、リスト、ブラームス、ドビュッシー、シマノフスキと拡大を続け、その中からドイツ・グラモフォンより6枚のアルバムがリリースされた。この間の活動が高く評価され、2014年には、「ピアノのノーベル賞」とも称されるギルモア賞(アメリカ)を受賞。

1985年ポーランドのナクウォ・ナデ・ノテション生まれ。5歳からピアノを習い始め、ビドゴシチ市のルービンシュタイン音楽学校(ヤチェク・ポランスキ教授)を経て、ナワヴェジスキ音楽大学にてカタリーナ・ポボヴァ=ズイドロン教授に師事、2007年に卒業。在学中より、第13回ヨハン・セバスチャン・バッハ・ポーランド全国コンクール第1位およびグランプリ(1996年)、第5回A.ルービンシュタイン国際青少年ピアノコンクール第2位(2002年、ビドゴシチ)、第5回浜松国際ピアノコンクール第1位なしの第2位(2003年)など数々の賞を獲得。

ショパン国際ピアノコンクール優勝後は、ウィーン楽友協会、ベルリン・フィルハーモニー、コンセルトヘボウ、サル・プレイエル、ロイヤル・フェスティバル・ホール、ミラノ・スカラ座など世界の名だたるホールで演奏活動を始め、ザルツブルク、ヴェルビエ、ルール・クラヴィア、ギルモアといった主要音楽祭にも招かれている。デュトワ、ゲルギエフ、ハーディング、P. ヤルヴィ、ルイジ、ナガノ、ネルソンス、プレトニョフ、ヴァイト、ジンマンなど世界的な指揮者と共演。

2006年よりドイツ・グラモフォンと専属契約。ポーランド人演奏家として、クリスチャン・ツイメルマンに続く2人目となった。初のCD「ショパン：前奏曲集」でエコー・クラシック賞、ディアパソン・ドール賞を受賞。その後、2010年にはショパン生誕200年を記念してセムコフ指揮ロイヤル・コンセルトヘボウ管と録音したショパンのピアノ協奏曲1番、2番でドイツ・レコード批評家賞を受賞。「ドビュッシー／シマノフスキ」ではエコー・クラシック賞、グラモフォン誌月間ベスト・アルバム、2013年クラシック音楽の最優秀録音としてフレデリック賞(ポーランド)を授与された。2013年の「ショパン：ポロネーズ集」は発売と同時にゴールド・レコードに輝き、再びドイツ批評家賞を獲得。2017年にはJ.S.バッハの作品集、2019年にはヴァイオリンのキム・ボムソリと共演した室内楽の作品集、2023年にはショパンのピアノ・ソナタ2番、3番を含むアルバムがリリースされ話題となった。

批評家たちからはこれらの芸術的功績を讃えてキジアナ音楽院国際賞(イタリア)を2010年に贈られる。2015年、ポーランド共和国大統領メダルであるポーランド復興勲章カヴァレルスキ十字勲章を授与された。

原 明美 (音楽評論家)
Akemi Hara

ショパンのマズルカ

フレデリック・ショパン(1810-49)の残した作品は、ほとんどがピアノ曲であり、彼の天才的な創作力によって、ピアノ音楽史上に輝く名作の数々が生み出された。その特色のひとつが、ポーランド人としての国民的意識を強調した作品であり、それは初期から晩年まで繰り返し現れていた。ポーランドの舞曲に基づく「マズルカ」「ポロネーズ」はもちろんだが、たとえば「ワルツ」のなかにも、マズルカのリズムを用いた曲がある。

ショパンのマズルカは、全部で58曲ほどの作品が知られている。マズルカは元来、ポーランドのマゾフィア地方に古くから伝わるマズールという踊りに端を発し、それは、歌を伴いながら自由闊達な雰囲気の中で踊られる農民の踊りだったという。なお、マズールの名で総称される3拍子の舞踏には、マズールの他にクヤヴィアクやオベレク等も含まれる。

ポーランドのワルシャワ近郊ジェラズヴァ・ヴォラに生まれたショパンは、少年時代からマズルカを書き始め、その作曲は、故郷を離れてパリに赴いてからも続き、死の年にも及んだ。生涯の後半を主にフランスで過ごした彼は、祖国に帰ることなく世を去ったが、革命のさなかにあつた故郷のことを想い続けていたのである。1849年、ショパンは39年の生涯を閉じるが、絶筆となつたのはop.68-4の「マズルカ」だったという。最後の作品がマズルカだったことも、この作曲家の深い郷愁を象徴しているように思われてならない。そして、ショパンのマズルカには、祖国の舞曲を普遍的な芸術作品へと高めた、様式化の跡がうかがえる。舞曲本来の性格をふまえ、すべて4分の3拍子で、また大半が3部形式で書かれているが、各曲には、さまざまな工夫の凝らされた手法や、多様な情緒表現などが見いだせる。

4つのマズルカ Op.41

Op.41としてある4曲のマズルカは、1838~40年に作曲され、エティエンヌ・ヴィトヴィツキに献呈された。4曲の配列のしかたが版によって異なるが、今回プレハッチは、以下の順序で演奏する。

Op.41-1: 嬰ハ短調。書法は綿密だが、調が浮遊しているかのよう不安定であり、曲の終わり近くによく、本来の嬰ハ短調に落ち着く。

Op.41-2: ホ短調。第1番と同じく調が不安定で、内省的な雰囲気を持つマズルカ。

Op.41-3: ロ長調。同じ音型の繰り返しによる、単純な1曲。

Op.41-4: 変イ長調。マズルカとはいえ、流麗なワルツ風の作品。

3つのマズルカ Op.50

Op.50としてある3曲は、1841~42年に作曲され、レオン・シトコウスキに献呈された。ショパンの円熟した作風を如実に感じさせるマズルカ集である。

Op.50-1: ト長調。簡潔な書法のなかにも、喜ばしい気分を漂わせる。

Op.50-2: 変イ長調。高い気品を感じさせる1曲であり、中間部が特に舞曲風である。

Op.50-3: 嬰ハ短調。舞踏的な性格がほとんど見られず、対位法的な書法が目立つマズルカ。規模の大きさも注目される。

3つのマズルカ Op.56

Op.56としてある3曲のマズルカは、1843年に作曲され、キャサリン・マーバリー嬢に献呈された。

Op.56-1: ロ長調。規模の大きな構成のなかに、移ろうような気分が投影されたマズルカであり、中間部は、調を変えて二度現れる。

Op.56-2: ハ長調。主部での保続音や中間部のカノンに、特色がある。

Op.56-3: ハ短調。晩年の作らしく、様式化の傾向が強い、大規模なマズルカ。こらえきれぬ悲しみを訴えるような曲調だが、最後は長調に解放される。

3つのマズルカ Op.63

Op.63としてある3曲は、1846年に作曲され、ラウラ・チョスノフスカ伯爵夫人に献呈された。晩年の作でありながら、初期のマズルカに似て素朴な作風である。

Op.63-1: ロ長調。素朴ななかにも若々しい情熱の再燃を感じさせる。

Op.63-2: ヘ短調。短いながら深い哀愁の感じられる1曲。

Op.63-3: 嬰ハ短調。第2番と同様、哀愁を帯びたマズルカだが、コーダでは、カノンおよびフェルマータが効果的に用いられている。

4つのマズルカ Op.24

Op.24としてある4曲のマズルカは、1834~35年に作曲され、ドゥ・ベルトウイ伯爵に献呈された。

Op.24-1: ト短調。洗練された味わいを持つが、増2度の進行が独特の彩りを添えている。

Op.24-2: ハ長調。中間部で意表をついて変ニ長調となる点が興味深い。

Op.24-3: 変イ長調。中間部が短い、全体としては優雅な雰囲気を保っている。

Op.24-4: 変ロ短調。対位法的な書法も含む充実した構成が目をはひくマズルカ。

ショパン:ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op.35「葬送」

ショパンは、ピアノ・ソナタを3曲残した。1839年に作曲された第2番は、「葬送」または「葬送行進曲つき」の名で知られる。幅広い表現が盛りこまれ、古典的なソナタの伝統を打ち破るような大胆さが注目される作品である。四つの楽章から成るが、第3楽章の葬送行進曲だけが先に作られており、この暗く悲しい楽章をもとに全曲が構想されたと考えられている。

第1楽章: 変ロ短調、ソナタ形式。グラーヴェの序奏に始まる。この唐突で意外性のある序奏は、暗い不安感に包まれた第1楽章の気分を集約しているかのようだ。その後、「ドッピオ・モヴィメント(2倍の速さで)」と指示された主部に入り、ソナタ形式で展開する。

第2楽章: スケルツォ。変ホ短調、3部形式。不気味な雰囲気の主部と、明るく甘美な中間部から成る。中間部の楽想は、終わりにも回想される。

第3楽章: レント、マルシュ・フュネーブル。変ロ短調、3部形式。単独でも有名な葬送行進曲であり、暗く重苦しい葬送の行列が表現される。中間部で、天上の音楽のような美しいメロディーが現れるが、再び悲痛な主部に戻り、消えるように終わる。

第4楽章: フィナーレ:プレスト。変ロ短調。疾風が一瞬のうちに通過するかのよう、わずか75小節の不思議なフィナーレ。短いなか、調があいまいな響きなど、時代を先取りする書法が含まれており、その独創性は注目される。



ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】を通して、アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

<2023年度年間サポート>

F.A Y.A T.I 井上 豊 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O
片山由美子 河村はるみ K.K 木村美明 M.K 小室秀夫 N.S 新貝康司 N.S M.S
関根一祿 A.D 土屋涼子 トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 N.N 中島 和 中野和枝 中村尚義
中村美穂 T.H 樋口美枝子 N.H M.H 平山美由紀 藤野盾臣 細沼康子 M.H 松尾芳樹
松田 香 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M H.Y S.Y 渡部伸子
TDK株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルトハウス・ジャパン by 株式会社キタマ
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション
ライフブラン株式会社 Heart of the Earth株式会社
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社RINABO きづきアセット株式会社
株式会社青林堂 日本パレフェスキ協会淡路
(匿名希望 29名)

<ショパン・ピリオド楽器プロジェクト>

S.O 北村真 トゥルーラブ真智子 平山美由紀
(匿名希望 5名)

<舘野泉バースデープロジェクト>

Y.A 阿部将任・登美子 新井京子 池田光世 一柳吉子 A.I 遠藤一秀 大嶋早苗 大嶋浩美
大谷恵美子 S.O 奥田三華 小畑裕子 木全恵美子 久保春代 M.K 黒川智恵美 黒住彰子
斉藤久子 坂井和 佐々木暁子 菅原佳世子 鈴木早苗 R.T 田口雅子 田邊英利子 土谷美保子
永作稔 中村恭子 中村康江 K.H 羽生賢次 林雄嗣・鈴子 福島晶子 堀田高秀 松田純子
三上美智恵 光永育 K.M 山家七恵 S.Y K.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子
舘野泉ファンクラブ東京 舘野泉ファンクラブ東北 タピオラの会 日本セヴラック協会 有限会社ムジカーザ
NPO法人 Mプロジェクト スオミ・ピアノ・スクール研究会
(匿名希望 20名)

<ニュークラシックプロジェクト>

浅岡尚子 岩井陸雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜 篠崎啓史 I.S T.S
トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 T.N 長谷部 宏行 秦勝重 T.H 林 路郎 細沼康子 牧野佳那
松下泰之(マテイビ) S.Y
(匿名希望 14名)

2024年2月1日現在 敬称略



ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの
詳細はこちらを
ご覧ください。

